



## 特集

## 多摩市民の森で活動する

相田 幸一



伐倒後、1.6mの長さに玉切りする。

### ●間伐作業は

#### 心地よい

およそ、男10数人、女4人程度で、二班に分かれての活動が定着しつつある。

八ヶ岳西岳山麓の「多摩市民の森」のカラマツの林は、植林された一斉林だが、元々の植生だろうかアカマツが混じり、オオヤマザクラ、コナラ、ウリハダカエデなどの広葉樹が勢いをつけてきている。その中で50年生のカラマツを30%程度間伐することを目標に、少年自然の家へ1泊して1回平均60本のカラマツの間伐作業を行っている。

混み合っている樹林の間伐は、かかり木になることが多く、倒す方向には頭を悩ます。しかし、適切な判断と決断で実行する。汗と力の協力で、ありったけの知恵を絞り、緊張感をもって木を倒す。間伐、玉切り、運び出し、集積の一連の作業は実に楽しく遣り甲斐のある仕事だ。

枯木や不整形木が多く、各種の雑木が勢いを増しているのは、この森が長い間放置されていた証拠であろう。そのためか、林床の野草、灌木の種類が豊富で、それだけでも充分楽しめる。柔らかな緑が、可憐な花が、そして鮮やかな木の実が、さわやかな風が、五感を刺激して心地よい。

### ●今日までの流れ

「多摩市民の森」として国有林19haを活用する協定は、平成17年(2005年)5月4日に締結された。中部森林管理局南信森林管理署長と多摩市長は国有林「悠々の森」を教育の場として活用し、体験活動を実施していくことに合意した。ここは水源涵養保安林に指定されているため活動に

はそれなりの配慮も必要となるエリアである。

・平成17年(2005年)8月20日 市は今後の活用方法について市民の意見を聞こうと「多摩市民の森を創る日帰りツアー」を公募により実施した。参加者は現地です講師3人から森の案内と説明を受ける。

・9月30日 第一回ワークショップ開催。14人参加。自己紹介と意見交換を行う。管理計画のうち、まず手をつけるものについて、境界の確認、作業用の道をつけることなどを確認する。

・11月19日 第一回森林管理署と共同の間伐作業ボランティアを行う。18人参加。

小学生が林業体験で間伐した木材の運び出し。木材はトラックによりベレット工場へ。境界に目印をつける作業を同時に行う。

・平成18年(2006年)4月18日 第二回ワークショップ開催。市民10人、多摩市職員2人参加。

林業体験学習の市内小学生から市民の森の愛称が「フレンドツリー」となったことの報告があり、今後の市民の活動も団体を立ち上げ、名称を「フレンドツリーサポーターズ」とすることになった。必要な道具や機械、消耗品の調達等の手段を話し合い、今後の活動計画をまとめることになった。

・5月 第三回ワークショップ開催。

・6月10、11日 第二回森林作業ボランティア実施。目印をつけた境界に沿っての作業用道路づくり。100mほどの長さになる。

・6月14日 第四回ワークショップ開催。

今後の活動についての意見交換が行われた。

・7月20日 フレンドサポーターズ打ち合わせ。

1. 組織と役割分担について
2. 森林計画について



間伐前のカラマツの森。枯木や不整形木で混み合っている。



間伐後。光が林床に届き整然とした森に。



搬出されてペレットストーブの燃料に加工される間伐材の山。

- 3. 自主活動とルールづくりについて
- 4. 今後の活動について

- ・ **8月9日** フレンドツリーサポーターズ設立総会が開かれ、正式に会の活動となった。
- ・ **9月2、3日** 第一回の自主活動と **11月11、12日** 第二回の活動を行い、ほぼ森林全体の様子をつかむことができた。

・ **平成19年(2007年)** 4回の活動。  
作業用通路づくり、自然観察。

・ **平成20年(2008年)** 4回の活動。

この年から「自然観察の森」の間伐作業が中心となり、年5回の間伐作業活動が定例的になる。以来、平成27年(2015年)現在継続中である。

### ●こんな森だ(森のあらまし)

初めのころは、森林の様子を観察、作業用通路の確保を中心に、倒木、枯損木の片づけ、不整形木の間伐作業を行った。その後3年目からカラマツ、アカマツの間伐作業が中心となる。

この森(国有林)は1965年ころカラマツの一斉林として植林され、一部が2000年ころ列状に間伐されたくらいで、その前もその後もほとんど手を加えられていない森林であった。林野庁が全国の国有林の中に一般の人の立ち入りを奨励する「悠々の森」構想を立ち上げ、それに適した森に指定したものの一つである。19haの広さがあり、中部森林管理局南信森林管理署の管轄となっている。

三つのエリアに分けられていて「体験の森」「自然観察の森」「憩いの森」となっている。

「憩いの森」は、八ヶ岳の西岳登山の起点となる登山道周辺のやや開けた場所であり、休憩場所が設けられている。「体験の森」は、多摩市の全小学校が課外学習の1日を林業体験、間伐作業に充てている場所だ。ここでの小学6年生の活動は、大いに評価してよいものだと思う。林業県ともいえる長野県、群馬県でもここまでは徹底して森林に関わらせてはいないようだ。「自然観察の森」は、ほとんど手つかずで残った荒れ果てたカラマツの森で、ここが冒頭の活動の舞台だ。間伐を進めるとともに、自然観察の場として大いに活用できる森だ。

### ●森の植物たち

標高1450mほどに位置し、高山性植物が一部に混じり多

摩丘陵にはない植生も見られる。アカバナイチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウ、クサボタン、イカリソウ、サラシナショウマ、ヤマトリカブト、ハナイカリ、フウロソウ、シモツケ、エンレイソウ、シャクジョウソウ、イケマ、ウメガサソウ、クモキリソウ、ヤマオダマキ、ミヤママコナなどの草花が春から秋にかけて森を彩る。

樹木はカラマツ、アカマツにネズミサシ、トウヒの針葉樹が混じり、コナラ、ミズナラ、キハダ、クリも多く、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、ホソエカエデ、オオモミジなどのカエデ類、オオヤマザクラ、カスミザクラ、マメザクラ、ウワミズザクラなどのサクラ類も豊富だ。ズミ、イボタヒョウタンボク、サワフタギ、ツルウメモドキ、ヤマブドウ、カンボクなど雑多な木。食べられるキノコ、ジゴボウなどさまざまな種類のキノコが見られる。

### ●活動の本質的意義

そしてこの森での活動のハイライトが10月の半ばに催される。名付けて「緑の資源、活かして進める循環型社会」の横断幕の下に集う40数人、中部森林管理局南信森林管理署が主催する間伐材の搬出作業だ。多摩市から社会教育関係の職員5人が駆け付け、フレンドツリーサポーターズ15人、富士見町、公社職員5人、森林管理署、所長はじめ6人、上伊那森林組合搬出用クレーン付きトラック4台を含む10人が参加。その年のフレンドツリーサポーターズ活動の間伐材に加え、多摩市の全小学校が林業体験で間伐した林内に置かれたものも多数あり、それらを一齐に車の通れる林道まで運び出す一大イベントだ。1.6mに玉切りした木材を、担ぐ者、ロープで引き下ろす者、転がしていく者、一輪者に積み込んで運ぶ者、それぞれのスタイルでほぼ1時間の作業。

搬出した木材は25～30m。伊那市高遠町の上伊那森林組合木質バイオマスエネルギー工場に持ち込み、ペレットストーブの燃料に加工される。間伐することによって樹木にも人にも心地よい森に誘導するとともに、まちの人と山の人が連携して、緑の循環型社会の推進に少しでも役に立てることができれば、私たちにとっても望むところであり、長く続けられるよう努めていきたいと願っている。



ヤマオダマキ



ヤマトリカブト



サラシナショウマ

## 奈良ばい谷戸に馬場さんを訪ねて

田んぼにはレンゲが咲き、奥に続く谷戸はゆるい棚田で萌え出る緑で溢れていました。脇道を進んで行くと、ウグイスとカエルの鳴き声に迎えられ、何だかウキウキしてきます。4月18日、「奈良ばい谷戸」を訪れました。ここは町田市小野路。市の北部丘陵に位置し、西側は唐木田と函師を結ぶ街道に向かって開け、東西方向に800mほど伸びている谷戸です。小野路は森林文化協会の「にほんの里100選」に最初に選ばれた里山で、その中の「奈良ばい谷戸」は斜面林と谷の農地からなります。「奈良ばい」とは、この地が昔は小野路城と小山田城を結ぶ城道だったため、戦や訓練のときに兵士に「並べい!」とかけた号令が、いつしか変化して「奈良ばい」になったとか言われています。

馬場さんはこの環境再生活動を目的とする「まちだ結いの里」でボランティア活動をしています。「まちだ結いの里」は2005年に開始され、永年放置されていた田んぼを人力で再生し、稲作と畑作を行っています。さらにその周囲の管理放棄された樹林地の下草刈り、枝打ち、水路管理、溜池整備も行っています。今では近隣農家の畑作業も請け負っ



洗い場の脇には獅子齋しが



雑木で水路の土留めを

ているとのこと。2009年NPO法人を立ち上げ、活動地域は約25haということですから、なな山の約10倍です。会員は現在約60名で、馬場さんは9年前からここで活動をしています。「活動日は当初、毎週土曜日だけだったけれど、もっとやりたいから水曜日も活動日にしちゃった」と。

訪れた日はイネの種まきをしました。1㎡ほどに区画を区切ったところへモミを撒き、薫炭を載せ、不織布で覆って陸苗を育てること。薫炭は昨年のもミで作ったもの、5月の田植えに向けての準備でした。田んぼを過ぎて、奥へ進むとアシの生えた耕作放棄地とそれに続く溜池があり、ここは私有地とのことでした。更にその奥へ進むとムギやジャガイモ畑があり、近所の学校や施設の学習に使われていました。

「まちだ結いの里」は、ここが谷戸であるため水管理が大きな仕事になっているようです。田んぼの水管理はもとより、水路は畔をめくり、そのいたるところが雑木で補強され、橋がかかっています。草刈り、ド口出し、畔の修復など、多くの力技が随所に見取れます。が、モウソウダケの樋で水を引いて洗い場を作り、その脇には獅子齋しが作ってあるなど、しっかり楽しんでいる様子もうかがえます。「去年は雨が多く、谷戸の奥で2回も水があふれ、畑



奈良ばい谷戸全景

が水浸しになってしまったんで、新しい水路を作ったから見てって」とのこと。行ってみると、まだ水の流れはありませんでしたが、幅1m深さ50cmほどの水路が数十メートルにもわたり、延々と続いていました。人家はなく、水路や溜池や田んぼがあるので生物も豊富とのこと、あちこちにウサギの糞があり、食いちぎった草がありました。「タヌキ、ハクビシン、カエル、メダカ、ホタルなどがあるよ」と馬場さん。会員の方に明日は植物観察会があると誘われたので、その気になって翌日参加しました。ところが、広さはなな山の10倍もあるので観察会は3時間にもわたり、奈良ばい谷戸全域の植物を100種ほど見て回りました。マツバヒゲ、イカリソウ、ホタルカズラ、ヒメハギなどは、なな山では見られない植物で花が咲いていました。ここではタケノコ掘りや田植え、稲刈り、イモ掘り、炭焼きなど季節のイベントも盛んに行われているそうです。

看板、物置小屋、炭焼き小屋、堆肥囲いなどの造作物には木材やタケ、アシなどのこの谷戸周辺で集めた材料が使われています。炭焼き小屋の屋根はアシを刈って昨年、新たに葺いたとのこと。人工物が目立たないため、昔、暮らしていた人々の呼吸が聞こえるようです。田んぼや自然を人力でここまで再生させた「奈良ばい谷戸」は、町田市と企業と個人の所有する土地が入り組んだ複雑な地域なため、困難なことも多いと思われませんが、環境保全、生物多様性の確保が確実に次の世代へ受け継がれていくのではないかと思います。

(中原)



人工物のない奈良ばい谷戸



延々と続く水路

# なな山日記 (活動・観察記録)

<p><b>No. 267 2015年4月26日(日) 晴れ 気温 18℃</b>  <b>参加者 20人</b>            キンラン、ギンラン、エビネなどの株が増え、豊かさを実感。            ●作業/樹木調査。玉切り材の整理。テーブル作り。樹木の名札作り。ハンショウヅルの柵作り。観察園の耕耘機かけ、畝作り、施肥、草取り。            ●観察/全域の自然観察。コゲラが木を打つ音が響いていた。クワガタを見つけた。キンラン、ギンラン、エビネ、オオアマナが開花。</p>	<p><b>No. 268 2015年5月10日(日) 晴れ 気温 21℃</b>  <b>参加者 21人</b>            暑い日影は涼しい活動日和。            ●作業/樹木調査。のり面草刈り。倉庫備品棚卸し。西の山階段修理。観察園周辺の草取り。            ●観察/アマドコロ、エゴノキが開花。ハンショウヅルは蕾が大きくなり、もうすぐ開花か。</p> 
<p><b>No. 269 2015年5月24日(日) 曇り/晴れ 気温 25℃</b>  <b>参加者 20人</b>            樹木調査は午前中で一旦終了、秋から再開予定。比留間さん入会。            ●作業/のり面の刈草集め。道路沿いの草取り、清掃。住宅地内空き地の草刈り。側溝の清掃。            ●観察/サイハイラン、ナワシロイチゴが開花。カラスビシャクは実をつけ、葉にはムカゴをつけていた。ヤマグワの実が赤くなり始めた。</p>	<p><b>No. 270 2015年6月14日(日) 曇り/晴れ 気温 25℃</b>  <b>参加者 17人</b>            東の山に新しい作業道完成。270号より「活動・観察記録」係は宮崎さん。            ●作業/アズマネザサを刈って東の山の作業道作り。のり面のカヤ刈り。シイタケのホダギ整理と本伏せ。観察園の草取り。            ●観察/クヌギのどんぐりが大きくなり、オオバジャノヒゲ、オカトラノオ、ヤブレガサが開花。エゴノキの実がたくさんついた。</p>
<p><b>No. 271 2015年6月28日(日) 晴れ 気温 27℃</b>  <b>参加者 23人</b>            汗をかいた後のジャガイモの試食は最高!            ●作業/のり面草刈り、カヤ集め。シイタケのホダギの本伏せ。ジャガイモ(キタアカリ)とタマネギ収穫、スイカ畑のカヤ敷き。            ●観察/オオバノトンボソウ、ヒヨドリバナが開花。</p> 	<p><b>No. 272 2015年7月12日(日) 晴れ 気温 28℃</b>  <b>参加者 19人</b>            なな山全域にヤマユリが咲き出した。            ●作業/広場と中の谷の草刈り、保護植物の周囲は手刈り。東の山の作業道修理。テーブル作り。ジャガイモ(メイクイン)とニラを収穫。            ●観察/オオバギボウシ、ヒメヒオウギズイセンが開花。ヤマユリは1株に6個もの花をつけていた。</p>
<p><b>No. 273 2015年7月26日(日) 晴れ 気温 31℃</b>  <b>参加者 15人</b>            極暑の一日。こまめに水分補給しながらの作業。            ●作業/広場、中の谷、道路沿いの草刈り、清掃。観察園の草刈りと水やり、ミョウガ収穫。よしず作成。            ●観察/ウバタマムシ、クロヒカゲを観察。マンリョウ、ヤブラン、コクランを観察。</p> 	<p><b>No. 274 2015年8月9日(日) 曇り/晴れ 気温 30℃</b>  <b>参加者 18人</b>            ペットボトルで作った蜂トラップを仕掛けた。            ●作業/広場、道路沿いの草刈りと清掃。観察園の水やり。テーブル作成。蜂トラップの作成と仕掛け。クズの蔓でリースの土台作り、よしず作成。            ●観察/スイカが大きく育っていた。タマムシ、セミの脱け殻を観察。クヌギのどんぐりがだいぶ大きくなった。ホオズキが赤くなっていた。</p>

## なな山で行われたイベント

- ・5月12日(火) めかいクラブ、多摩めかいの会の活動
- ・5月15日(金) 6月19日(金) 帝京大学教育学部 なな山緑地観察会「森の作業を知る・体験する」「シノダケを使ったスタレづくり」
- ・6月13日(土) 10月10日(土) 南鶴牧小学校 自然観察会

## なな山だより 第35号 2015年10月11日発行

発行 なな山緑地の会  
 発行責任者 高木直樹  
 住所 多摩市和田 1394-13  
 ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>  
 編集委員 鎌田文雄 中原君代